

# 「ハンセン病 今、私ができること」

7月6日：桂川町住民センターにて開催

## Symposium Report

### 詩人・桜井哲夫氏との出会い

差別や偏見とは無縁だと思つて生きてきた私は、ハンセン病発症から、隔離、病との闘いの日々、結婚、らい予防法による子の墮胎、愛する者の死そして重い後遺症という壮絶な人生を送った、元ハンセン病患者で詩人の桜井哲夫さんに出会いました。そして「差別とは」「偏見とは」を桜井さんと一緒に探る日々を送ってきました。

### ハンセン病とは

国策により強制的に療養所に隔離されたり、家が消毒されたりして、感染力が強い病気、怖い病気という誤解が広まり、さらに病気の進行に伴う外見上の変化等のために、偏見・差別の対象となりました。

ハンセン病の原因は、「らい菌」による感染症のため遺伝することはありません。

現在、ハンセン病は治る病気で、早期に治療すれば、身体に障害を残すこともありません。また、治療後に残る変化は、単なる後遺症にすぎません。



イラスト、字幕制作  
ディレクター  
金正美さん

日常生活で感染することはありません。

### 今、私ができること

ハンセン病についてもそうですが、皆さんには、まず正しい知識を持つていただきたいと思っています。情報が錯綜した時に、正しい情報を選択できる力が無ければ、誤った物の見方をしてしまいます。

次に今、私たちの日常生活の中で、職場や学校、社会でのいじめや差別はいたる所にあると思いますが、それを見つけれませんか？

見つける努力をしないと見つけれられないと思います。よく「差別はやめましょう。」と言いますが、では差別はどこにありますか？

私は、差別があるとすれば「差別は自分の中にあるのだ。」「自分はどうか。」と自分自身を見つめていく努力が大事なのではないかと思えます。

そして最後に「他の人の身にどれだけ近づけるか、寄り添えるか。」ということが重要だと思っています。それには、「どんなにつらいのか？どんなに苦しみ、痛んでいるのか？」といった相手のことを思いやる「想像力」を鍛えることが必要ではないかと思えます。

私がハンセン病と出会って、ハンセン病の元患者さんたちと正面から向き合っただけで、少しだけでも皆さんに伝わり、差別について考える際にご家族での話題となれば幸いです。



人権講演会終了後に「人権・同和問題の啓発標語」の表彰式が行われました。

## 人権・同和問題の啓発標語代表作品

### 最優秀

気づこうよ!!差別で悩む「友」の声

桂川中学校 光武 真由子さん

### 優秀

楽しいな いじめや差別がない学校

桂川中学校 熊谷 和哉さん

### 優秀

繋げよう “差別しない” のバトンリレー

桂川中学校 森内 恵さん

### 優秀

かなしいな いじめられても いじめても

桂川小学校 原田 茉紀さん

※佳作11点については、今後、「広報けいせん」で紹介していきます。

## 街頭啓発

(7月1日)

標語入りうちわを配り、街頭啓発を行う、桂川町人権・同和問題協議会会長(井上町長)

